

平成 22 年 10 月 9 日

福沢諭吉翁の生涯（満年齢）

『起』（1835 年～1853 年＝ペリー来航の年）1 歳～18 歳

- ① 1835 年 1 月 10 日、大阪で生まれ、1836 年 6 月 18 日に父百助が病死すると、母子 6 人は中津に帰り、以後少年時代を中津で過ごした。
- ② 幼少の頃から酒が好き、運動は苦手。家風が中津の風に合わない。
- ③ 12～13 歳頃から白石常人より漢学を、中村庄兵衛より居合いを、学ぶ。
- ④ 成長するにつれて、封建門閥制度の束縛に不満をもつようになる。

『承』（1854 年～1867 年）19 歳～32 歳

- ① 1854 年(19 歳) 中津から長崎に出て、蘭学を学ぶ。
- ② 1855 年(20 歳) 長崎から大阪に出て、緒方洪庵の適塾に入門する。
- ③ 1858 年 藩の命令で大阪から江戸に出て、築地鉄砲洲の奥平家中屋敷の中の小さな長屋の一軒で蘭学の家塾を開く——**慶応義塾の起源**
- ④ 1859 年 横浜を見学して、これまで学んだオランダ語が実地の役に立たぬことを知り、思い切って英語に転向する。辞書を頼りに独学で研究。
- ⑤ 1860 年 (25 歳) 1 月に軍艦咸臨丸に乗って、アメリカ西海岸に行く。
- ⑥ 1861 年 (26 歳) 鉄砲洲から新銭座に転居し、錦さんと結婚する。
- ⑦ 1862 年 (27 歳) ヨーロッパ派遣の幕府使節の翻訳方随員として 1 月に出發し、フランス、イギリス、オランダ、プロシア、ロシア、ポルトガル、の 6 カ国を巡り、12 月に帰国する。
- ⑧ **1864 年～1866 年(29 歳～31 歳) 幕臣として幕府を支持し「幕府強化論」を唱え、1866 年に「長州再征に関する建白書」を幕府に提出する。**
- ⑨ 1867 年 (32 歳) 1 月に幕府の軍艦受取委員の随員として、再びアメリカに行き、東部諸州の諸都市を見て、6 月に帰国。**公然と幕府打倒を叫ぶ。**

『転』（1868 年～1881 年）33 歳～46 歳

- ① 1868 年＝明治元年(33 歳) 4 月に家塾を**築地鉄砲洲から芝新銭座に移し、慶応義塾と命名**する。上野彰義隊の戦いの砲声を耳にしながら、ウェーランド経済書の講義をする。
- ② 1871 年＝明治 4 年(36 歳) 3 月に**慶応義塾を新銭座から三田に移し、これと共に転居する。**(7 月廃藩置県。10 月岩倉具視らを欧米に派遣。)

- ③ 1872 年=明治 5 年(37 歳) 「学問のすゝめ」初編刊。
- ④ 1875 年=明治 8 年(40 歳) 「文明論の概略」刊。
- ⑤ 1880 年=明治 13 年(45 歳) 1 月に 交詢社を起す。
- ⑥ 1881 年=明治 14 年(46 歳) いわゆる「明治 14 年の政変」によりあらぬ嫌疑を受ける。井上毅が大隈と福澤を陥れた黒幕であったが、福澤は知らない。

『結』(1882 年～1901 年) 47 歳～66 歳

- ① 1882 年=明治 15 年(47 歳) 3 月に 時事新報を発刊。
- ② 1884 年=明治 17 年(49 歳) 12 月に甲申事変(福澤関与)に失敗し、日本に亡命した朝鮮独立党の金玉均、朴泳孝らを、福澤の別邸にかくまう。
- ③ 1885 年=明治 18 年(50 歳) 「時事新報」社説に、「脱亜論」を発表。
- ④ 1894 年=明治 27 年(59 歳) 日清戦争を「文野の戦争」として支持する。
- ⑤ 1898 年=明治 31 年(63 歳) 5 月「福翁自伝」脱稿。翌年 6 月発刊。
9 月 26 日、脳溢血に罹る。
- ⑥ 1901 年=明治 34 年(66 歳) 1 月に「瘠我慢の説」(明治 24 年脱稿)を発表。
1 月脳溢血症再発。2 月 3 日午後 10 時 50 分、三田慶応義塾内の自邸にて長逝。
法名は、「大観院独立自尊居士」

以上

維新の元勳及び明治の功臣との交遊

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1. 黒田 清隆(1840-1900) | 維新後親交を重ねたが明治 14 年の政変で断絶。 |
| 2. 岩倉 具視(1825-1883) | 維新後の政局で諭吉の論説を最も重視した人。 |
| 3. 木戸 孝允(1833-1877) | 維新の三傑の内、諭吉は最も親しく往来した。 |
| 4. 大久保利通(1830-1878) | 両者 3 回会談したが、「左様しからば」の関係。 |
| 5. 西郷 隆盛(1827-1877) | 両者は一面識もなかったが、互いに相手を尊重。 |
| 6. 大村益次郎(1824-1869) | 緒方洪庵の適塾での親友。 |
| 7. 後藤象二郎(1838-1897) | 諭吉が最も惚れ込み、家族ぐるみで交際した。 |
| 8. 板垣 退助(1837-1919) | 諭吉の「分権論」に感激するも、並みの交際。 |
| 9. 大隈 重信(1838-1922) | 無二の親友であり、両家は親戚同様の交際。 |
| 10. 伊藤 博文(1841-1909) | 維新後親交を重ねたが明治 14 年の政変で変化。 |
| 11. 井上 馨(1835-1915) | 維新後親交を重ねたが明治 14 年の政変で変化。 |
| 12. 勝 海舟(1823-1899) | 咸臨丸での出会い以後、二人は犬猿の仲になる。 |

諭吉には政治家のタイプに好みがあって、西郷、後藤、大隈というような、寛大で、細節に拘泥しない、しかも大切なツボを外さない人物が好きであった。